

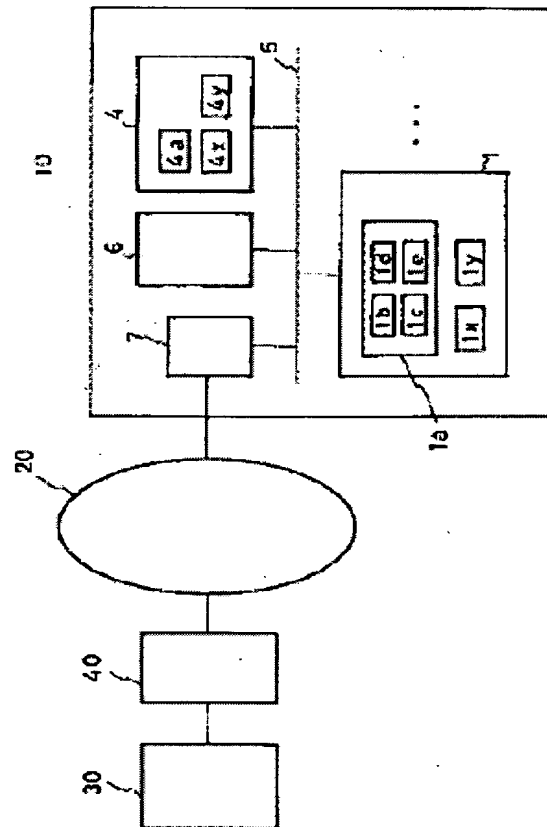
**JOB PROCESSING CONTROLLER CAPABLE OF SELECTING MENU FORM AND  
JOB PACKAGE THEREFOR**

**Patent number:** JP2001318750  
**Publication date:** 2001-11-16  
**Inventor:** WADA SHIGEFUMI; NAKAYAMA SHIGERU;  
OKAMOTO ATSUSHI; KAWAI SEIJI  
**Applicant:** OBIC BUSINESS CONSULTANTS LTD  
**Classification:**  
- international: **G06F3/00; G06F3/14; G06F3/00; G06F3/14; (IPC1-7):**  
**G06F3/00; G06F3/14**  
- european:  
**Application number:** JP20000137024 20000510  
**Priority number(s):** JP20000137024 20000510

Report a data error here

**Abstract of JP2001318750**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a job processing controller for solving the problems that button menu and pull-down menu coexist as menu form, the button menu is suitable for a beginner but is time-consuming for a person experienced in a related personal computer, on the other hand, the pull-down menu is difficult to operate and inconvenient for the beginner although a menu image is required for a job program executing the job of an enterprise. **SOLUTION:** This controller is provided with a menu display selection means capable of selecting a menu form when the job program is installed or immediately after the job program is activated and the job program is the menu form required by the person in charge.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2001-318750  
(P2001-318750A)

(43) 公開日 平成13年11月16日 (2001. 11. 16)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テームト <sup>*</sup> (参考)
G 0 6 F 3/00	6 5 4	G 0 6 F 3/00	6 5 4 B 5 B 0 6 9
3/14	3 1 0	3/14	3 1 0 E 5 E 5 0 1

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2000-137024 (P2000-137024)

(22) 出願日 平成12年 5 月10日 (2000. 5. 10)

(71) 出願人 593089895

株式会社オービックビジネスコンサルタント

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号

(72) 発明者 和田 成 史

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式会社オービックビジネスコンサルタント内

(72) 発明者 中山 茂

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式会社オービックビジネスコンサルタント内

(74) 代理人 100093399

弁理士 瀬谷 徹 (外 2 名)

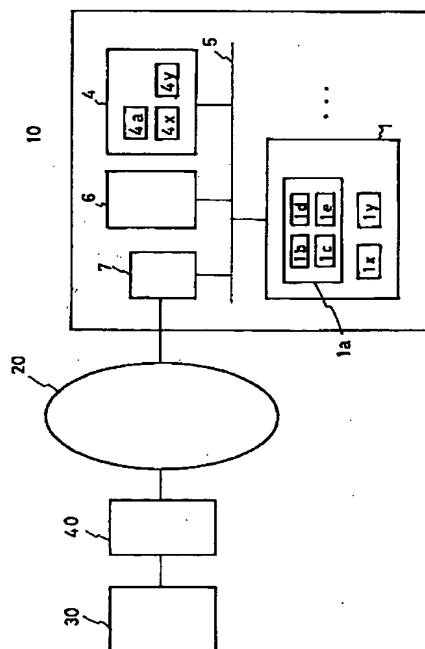
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 メニュー形式選択可能な業務処理制御装置並びにその業務パッケージ

(57) 【要約】

【課題】 企業の業務を遂行する業務プログラムにはメニュー画面を必要とするが、そのメニュー形式にボタンメニューとプルダウンメニュー形式が混在し、ボタンメニューは初心者にはよいが、パソコンに馴れた担当者には手間がかかり、プルダウンメニューは初心者には操作し難く不便であった。これを解決する業務処理制御装置を提供するにある。

【解決手段】 業務プログラムのインストール時もしくは起動した直後、そのメニュー形式を選択できるメニュー表示選択手段を備え、担当者が必要とするメニュー形式となった業務プログラムとする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 企業業務を遂行する業務プログラムを処理する業務処理端末機と、その業務処理に必要な情報データを記録するデータベースとを少なくとも備えたコンピュータシステムにおいて、

前記業務プログラムは、前記端末機のウインドウ枠表示内全面にわたって業務のメインメニュー項目選択用ボタンを2次元配置したメニュー表示画面を生成し、選択用ボタンが選択されるとその画面に代り一段下の階層のメニュー項目選択用ボタンの2次又は1次元配置画面が表示する複数階層を形成し、最終階層ではそのメニュー画面に代りその業務を実行するための情報データ入力画面を表示するボタンメニュー表示形式の第1の表示手段と、

前記端末機のウインドウ枠表示内で枠に平行な複数メインメニュー項目を配置したメニュー欄の有する業務処理用画面を生成し、メニュー項目が選択されるとそのメニュー項目に近接して一段下の階層のメニュー項目欄が配置されたサブウインドウ枠を同一画面に次々と表示する複数階層を表示し、最終階層では前記業務処理用画面が当該業務を実行するための情報データを入力できる状態になるプルダウンメニュー形式の第2の表示手段と、前記第1及び第2の表示手段を有する業務プログラムのインストール時もしくは起動直後にいずれかを選択できるメニュー表示選択手段とを含むことを特徴とするメニュー形式選択可能な業務処理制御装置。

【請求項2】 前記第1及び第2の表示手段におけるメインメニュー項目の一つはメニュー表示形式を選択できるシステム環境設定項目であり、その項目によりメインメニュー項目の表示画面により、いつでもメニュー形式を変更できるメニュー形式変更手段を含むことを特徴とする請求項1記載のメニュー形式選択可能な業務処理制御装置。

【請求項3】 請求項1記載のメニュー形式選択可能な業務処理制御装置における第1の表示手段と、第2の表示手段と、メニュー表示選択手段とを含む業務プログラムを記録した記録媒体であることを特徴とするメニュー形式選択可能な業務パッケージ。

【請求項4】 請求項2記載のメニュー形式選択可能な業務処理制御装置における第1の表示手段と、第2の表示手段と、メニュー表示選択手段と、メニュー形式変更手段とを含む業務プログラムを記録した記録媒体であることを特徴とするメニュー形式選択可能な業務パッケージ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、業務プログラムを処理する業務処理端末機において、ボタンメニュー表示形式とプルダウンメニュー表示形式のいずれかを選択できるメニュー形式選択可能な業務処理制御装置に関し、

またそのメニュー形式選択手段のプログラムを記録した記録媒体である業務パッケージに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来において、コンピュータシステムの業務処理端末機表示画面上で業務プログラムを処理する場合、最初は必要とするメニュー項目を選択して、その入力画面表示させ、その画面で情報データを入力して業務処理を行う。

【0003】 その際に、表示されるメニュー形式はその業務プログラムによってメニュー形式が異なっていた。

【0004】 すなわち、エレクトロニック・バンキング業務プログラムでは、金融機関・銀行などにおけるATMのイメージで操作できるように、そのメニュー形式は縦横に業務のメニュー項目選択用ボタンを2次元配置した表示画面とするボタンメニュー表示形式を採用していることが多かった。

【0005】 一方、販売・仕入、財務会計などの従来からある業務プログラムでは、ウインドウ枠表示画面の上部に複数のメインメニュー項目を配置したメニュー欄を備え、その項目を選択してサブウインドウ枠にメニュー項目を表示させるプルダウンメニュー形式を採用しているのが多かった。

【0006】 ボタンメニュー形式は、銀行における納付金の振込機のようにATM感覚で操作できるので初心者でも操作ができる。しかしながら、階層が深いメニューの場合は最終階層にたどり着くまでの手順が多く、使い慣れてくると手順の手間を感じるようになっていた。

【0007】 一方、プルダウンメニュー形式は、階層が深くても、最終階層まで同一画面で順次に表示されるので操作が早く短時間で行うことができるが、パソコン初心者にとって操作の馴染みが無いので、操作に混乱を生じやすかった。

## 【0008】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は前述した点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、企業業務を遂行する業務プログラムを処理するに際して、ウインドウ枠表示形式のオペレーティングシステムに制御された業務処理端末機の表示画面に最初に表示されるメニュー形式を操作担当者が選択できるようにした業務処理制御装置を提供するものである。また、その手順のプログラムを記録した記録媒体である業務パッケージを提供するものである。

## 【0009】

【課題を解決するための手段】 前記課題を解決するため、本発明のメニュー形式選択可能な業務処理制御装置は、企業業務を遂行する業務プログラムを処理する業務処理端末機と、その業務処理に必要な情報データを記録するデータベースとを少なくとも備えたコンピュータシステムにおいて、前記業務プログラムは、前記端末機のウインドウ枠表示内全面にわたって業務のメインメニュー

一項目選択用ボタンを2次元配置したメニュー表示画面を生成し、選択用ボタンが選択されるとその画面に代り一段下の階層のメニュー項目選択用ボタンの2次又は1次元配置画面が表示する複数階層を形成し、最終階層ではそのメニュー画面に代りその業務を実行するための情報データ入力画面を表示するボタンメニュー表示形式の第1の表示手段と、前記端末機のウインドウ枠表示内で枠に平行な複数メインメニュー項目を配置したメニュー欄の有する業務処理用画面を生成し、メニュー項目が選択されるとそのメニュー項目に近接して一段下の階層のメニュー項目欄が配置されたサブウインドウ枠を同一画面に次々と表示する複数階層を表示し、最終階層では前記業務処理用画面が当該業務を実行するための情報データを入力できる状態になるプルダウンメニュー形式の第2の表示手段と、前記第1及び第2の表示手段を有する業務プログラムのインストール時もしくは起動直後にいずれかを選択できるメニュー表示選択手段とを含むことを特徴とする。

【0010】また、前記第1及び第2の表示手段におけるメインメニュー項目の一つはメニュー表示形式を選択できるシステム環境設定項目であり、その項目によりメインメニュー項目の表示画面により、いつでもメニュー形式を変更できるメニュー形式変更手段を含むことを特徴とする。

【0011】さらに、本発明のメニュー形式選択可能な業務パッケージは、請求項1記載のメニュー形式選択可能な業務処理制御装置における第1の表示手段と、第2の表示手段と、メニュー表示選択手段とを含む業務プログラムを記録した記録媒体であることを特徴とする。

【0012】また、請求項2記載のメニュー形式選択可能な業務処理制御装置における第1の表示手段と、第2の表示手段と、メニュー表示選択手段と、メニュー形式変更手段とを含む業務プログラムを記録した記録媒体であることを特徴とする。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図に基づき説明する。図1には本発明の一実施例であるメニュー形式選択可能な事務処理制御装置（以後事務処理制御装置と呼称する）10のブロック構成図と、その装置に接続する電話回線、ISDN回線、或はパケット通信網などの通信回線20、その通信回線20を介して接続する金融機関銀行のコンピュータシステム30、銀行サービス自動応答システム40の関係を示す図である。

【0014】ここで、事務処理制御装置10は、この実施例ではエレクトロニック・バンキング業務プログラムが起動する場合を例とする。その事務処理制御装置10は業務処理端末機1とデータベース4とそのデータベースサーバ6と通信回線接続回路部7とそれらを接続するローカル・エリア・ネットワーク（LAN）からなる。業務処理端末機1は複数あってもよい。或は業務処理端

末機1は1台でデータベースサーバ6は無くてもよい。その場合は端末機1のハードディスクドライブにデータベース4を設けてもよい。

【0015】端末機1はウインドウ枠表示形式のオペレーティング・システムに制御され、前述したようにエレクトロニック・バンキング業務プログラム（以後EB業務プログラムと呼称する）1aハードディスクにロードされている。さらに、他の業務プログラム、例えば販売・仕入管理業務プログラム1x、財務会計管理業務プログラム1yなどがハードディスクにロードされている。それらの業務プログラム1a、1x、1yに必要なデータベース4はエレクトロニック・バンキング用テーブル4a、販売・仕入管理用テーブル4x、財務会計管理用テーブル4yからなる。それらのテーブル4a、4x、4yは前述したようにハードディスクにあってもよい。

【0016】なお、EB業務プログラム1aは、ここでの実施例では、販売・仕入、財務会計業務プログラム1x、1yの処理に必要な企業の預金入出金データ或はそれら業務プログラム1x、1yの処理結果の振込、納付データを取り引銀行から受信或は取引銀行へ送信するように連動している場合であるとする。

【0017】EB業務プログラム1aはその端末機1の画面で前述したように業務プログラム1x、1yと連動して取引銀行のコンピュータシステム30から預金入手金データを受信したり、コンピュータシステム30へ振込、納付データを送信する手段を備えると共に、第1の表示手段1b、第2の表示手段1c、メニュー表示選択手段1d、メニュー形式変更手段1eを備えている。以下にそれらの手段1b、1c、1d、1eを説明する。

【0018】第1の表示手段1bは、端末機1のウインドウ枠表示内全面にわたって縦横に業務のメインメニュー項目選択用ボタンを2次元配置したメニュー表示画面を生成し、選択用ボタンが選択されると、その画面に代り、一段下の階層のメニュー項目選択用ボタン2次又は1次元配置画面が表示する複数階層を形成し、最終階層ではそのメニュー画面に代り、その業務を実行するための情報データ入力画面を表示するボタンメニュー表示形式である。

【0019】第2の表示手段1cは、端末機1のウインドウ枠表示内で枠に平行な複数メインメニュー項目を配置したメニュー欄の有する業務処理画面を生成し、メニュー項目が選択されると、そのメニュー項目に近接して一段下の階層のメニュー項目欄が配置されたサブウインドウ枠を同一画面に順次表示する複数階層を表示し、最終階層で選択されたときは、その業務処理用画面が当該業務を実行するための情報データを入力できる状態になるプルダウンメニュー形式である。

【0020】メニュー表示選択手段1dは、第1及び第2の表示手段1b、1cを有するEB業務プログラム1aのインストール時もしくは起動直後にいずれかを選択

10

20

30

40

50

できる。

【0021】メニュー形式変更手段1eは、第1及び第2の表示手段1b、1cにおけるメインメニュー項目の一つはメニュー表示形式を選択できるシステム環境設定項目であり、その項目によりメインメニュー項目の表示画面により、いつでもメニュー形式を変更できる。

【0022】次に、本発明の業務処理制御装置10の動作の流れを図2、図3に基づいて説明する。

【0023】端末機1でEB業務プログラム1aを起動すると、最初はメニュー形式選択画面が表示される（S21）。

【0024】このメニュー形式選択画面にはそれぞれボタンメニュー形式画面とプルダウンメニュー形式画面のパターンが表示され、いずれかを選ぶようにする（S22）。

【0025】図4にメニュー形式選択画面40の具体的な実施例を示す。41、42はそれぞれボタンメニュー形式のパターンとプルダウンメニュー形式のパターンを示し初心者でも解りやすく選択できるようにする。43、44はそれぞれボタンメニューのボタン、プルダウンメニューのボタンである。いずれか選択し、OKボタンを押せば以後そのメニュー形式になる（S23）。

【0026】ボタンメニューを選択したときは、メインメニュー項目選択用ボタンを2次元配置したメニュー表示画面を生成し表示する（S24）。

【0027】図5にそのボタンメニュー形式画面50の具体的な実施例を示す。図5に示すように51はEB業務プログラム1aにおいて、銀行利用サービスを受けたときの項目の例を示したものである。NTTデータ社の銀行サービス自動応答システムANSER-SPCにより契約口座に振込・照会を行いたいときの「ANSER-SPC」項目を始めとして、入出金明細総合振込、給与賞与振込、地方税納付、口座振替、依頼内容照会などがある。なお、環境設定項目52では後述するように、この項目のサービスマニューの中にメニュー形式変更ボタンがある。

【0028】一方、プルダウンメニューを選択したときは、複数メインメニュー項目を配置したメニュー欄の有する業務処理用画面を生成し表示する（S25）。

【0029】図6にそのプルダウンメニュー形式画面60の具体的な実施例を示す。61はそのメニュー欄である。図7は、そのメニュー欄61の中の総合振込項目62のメインメニューを選択したとき、その下部に近接して表示されたサブウィンドウ枠63を示したものである。なお、メニュー欄61の環境設定項目64でも後述するように、この項目のサービスマニューの中にメニュー形式変更ボタンがある。

【0030】図3に移り説明する。ボタンメニュー形式表示画面でメニュー項目を選択した場合は次のようになる。ユーザが目的とする業務に合致するメニュー項目を

複数階層の上位から下位へ順次メニュー画面を変えながら表示させ、必要とするメニューに到達する（S31）。

【0031】次に、最終階層では、そのメニュー画面の代りに、当該業務の情報データ入力画面が表示され、データを入力する（S32）。

【0032】一方、プルダウンメニュー形式表示画面でメニュー項目を選択した場合は次のようになる。メニュー欄のメニュー項目が選択されると、その項目に近接して下位の階層のメニューが同一画面内に次々と表示され、必要とするメニューに到達する（S33）。

【0033】次に、最終階層でメニューをクリックすれば、前記業務処理画面は、当該業務の情報データが入力可能となり、データを入力する（S34）。

【0034】ここで、データ入力中に、もしメニュー形式を変更したいときは、メインメニュー項目の環境設定項目を選択し、メニューの表示形式を切替える（S35）。

【0035】図8に環境設定項目画面80の具体的な実施例を示す。この例はEB業務プログラム1aの環境設定を行うものであるが、この中の81がメニューの表示形式を設定する欄である。ここで、いつでもボタンメニュー形式かプルダウンメニュー形式かに切替え自在のボタンである。

【0036】以上のようにして、データの入力作業はそれを操作する担当者に最も適したメニュー形式にして行うことができるので、企業としては効率的に業務を実行させることができる。

【0037】以上の第1の表示手段1b、第2の表示手段1c、メニュー表示選択手段1d、メニュー形式変更手段1eを含むEB業務プログラムは、それを記録した記録媒体の業務パッケージとすることができる。業務パッケージはCD-ROM或はフロッピーディスクなどであり端末機1のCD-ROMリーダ或はフロッピー（登録商標）ディスクドライブからハードディスクにロードして動作させることができる。

【0038】

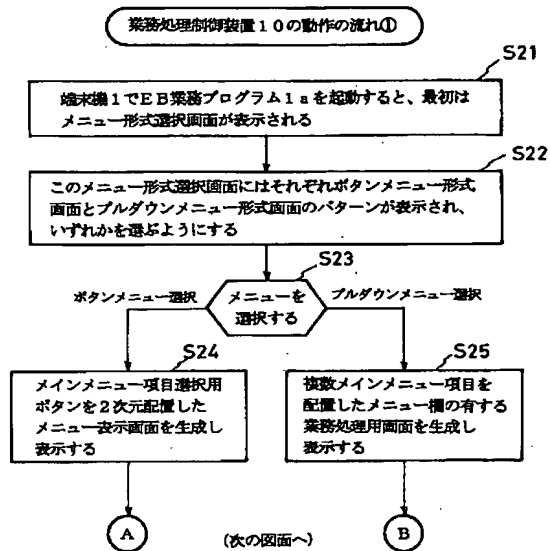
【発明の効果】本発明のメニュー形式選択可能な業務処理制御装置並びにその業務パッケージは以下のような効果を奏する。

【0039】端末機で業務プログラムを起動する際に、その表示画面のメニュー形式を担当者がボタンメニュー形式か又はプルダウンメニュー形式のいずれから選択できるので、担当者がパソコンなどの初心者であるときはボタンメニュー形式を選択して銀行におけるATM感覚で容易に操作できる。

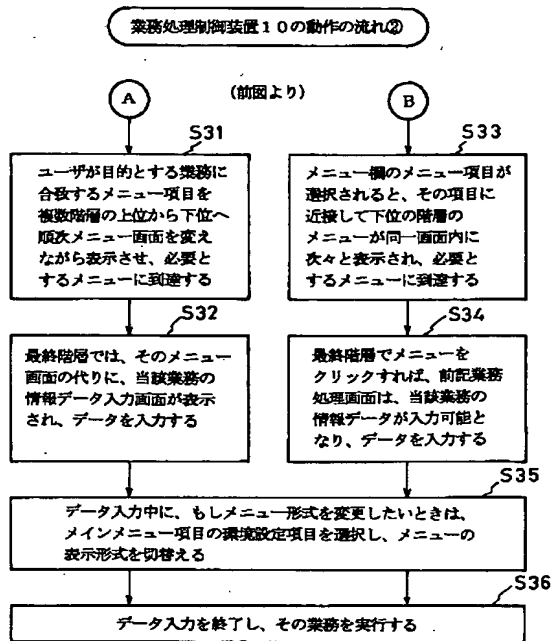
【0040】一方、担当者が初心者でない場合は、ボタンメニュー形式はメニュー画面を何回もアクセス手順に手間がかかるので、プルダウンメニュー形式を選択して、短い操作で最終階層のメニュー項目に達しそのデー



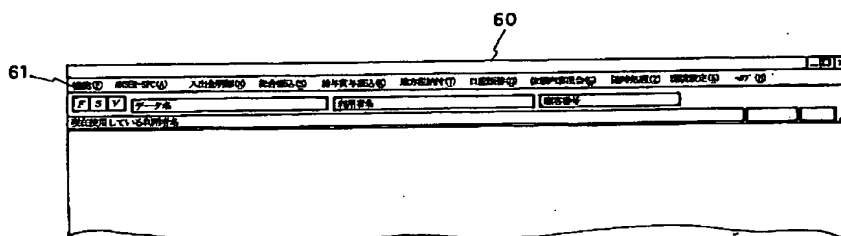
【図2】



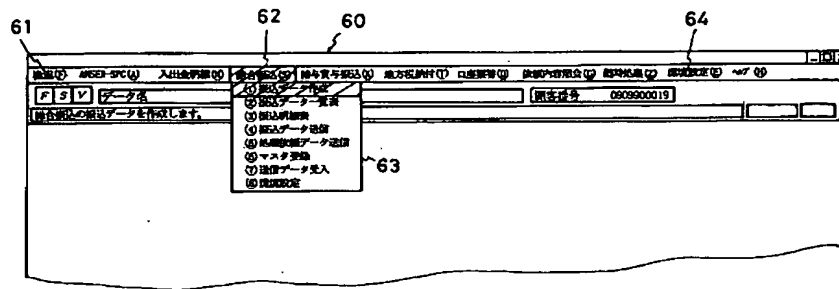
【図3】



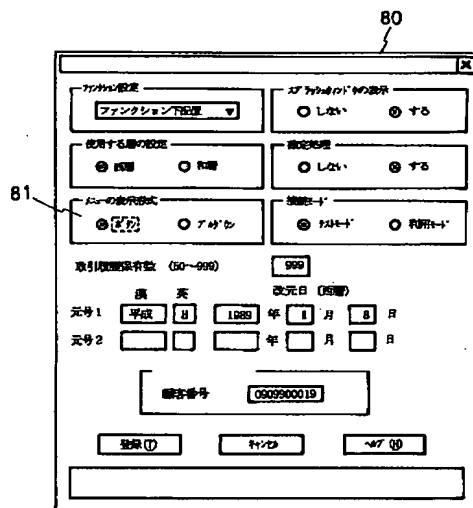
【図6】



【図7】



【図8】



フロントページの続き

(72)発明者 岡 本 敦

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービックビジネスコンサルタント内

(72)発明者 河 合 清 司

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービックビジネスコンサルタント内

Fターム(参考) 5B069 AA01 BA01 BA04 BB16 CA02  
CA19  
5E501 AA09 AC25 BA03 BA05 CA02  
EA10 EB05 FA05 FA23 FA43  
FB43